

意外とすごい！

藍染めのチカラ

いいこといっぱい

藍染めが大人気になった理由は美しい色とその機能性にあります。藍染めをすることで得られるチカラをいくつか紹介します。

01 布が丈夫になる

農作業などをする作業着は丈夫さが大切。藍染めをすることで、布の繊維同士の結びつきが強くなり、破れにくくなります。



02 虫食いを防ぐ

防虫効果があると言われており、藍染めをした和紙に書かれたお経が平安時代からきれいに残っています。



03 肌に優しい

炎症を抑える薬として使われてきた藍。肌着を染めると肌荒れを防ぐだけでなく、抗菌・消臭効果があります。



04 縁起がいい！？

濃い藍色は「褐色（かちいろ）」と呼ばれ「勝ち」と同じ音のため、武家の装束や剣道着などに使われてきました。



【02～04の参考】『夢藍の成分と機能性について—機能性を併せ持つ染料の科学—』佐々木健郎著 東北薬科大学研究誌 62巻 2015年

未来へ語り継ぐ、三芳ブルーの記憶

藍♥みよし

江戸～明治時代の三芳では染め物に使う藍葉がさかんに作られていたことをご存じですか？当時は空前の藍ブーム。その波に乗り、人々の生活を彩った三芳の藍の歴史と現在の姿に迫ります。



【写真】7/24(日)に旧池上家住宅で行われた藍染め体験教室。子どもたちが鮮やかな藍色に染めたトートバッグが風になびいていました。

Topics

藍染めの謎 なぜ緑の葉で青く染まる？

藍染めに使うのはタデアイという植物の葉。タデアイの葉には酵素と青色のもとになる成分（インディガン）が含まれていて、この2つが混ざり合い、空気ふれると青くなります。



タデアイ



↑子どもたちが藍で染めた作品。(詳しくはP6・7へ)

芳の色と言えどんな色を思い浮かべますか？平地林の緑色やサツマイモの紫色、落ち葉のオレンジ色など、町にはたくさん色があふれています。今から100年以上前、当時の三芳に根付いていたのは鮮やかな藍の色。村には藍畑が広がり、染料の生産や染め物がさかに行われていました。

藍は「ジャパン・ブルー」

藍染めの衣服は当時の人々にとってもなじみの深いものでした。明治8年に日本を訪れたイギリスの化学者ロバート・ウィリアム・アトキンソンは、着物から座布団まで様々なものが藍で染められていることに驚き、その色を「ジャパン・ブルー」と名づけました。明治時代前期頃の生活は藍とともにあったということがうかがえます。

今月は藍の特集。三芳での藍の歴史をたどりながら、現在に息づく「三芳ブルー」を探します。

【参考】『そだててあそぼう 18 アイの絵本』くさかべのぶゆき編・にしなざちこ絵 社団法人 農山漁村文化協会 1999年